

報道関係者 各位

2025 年 10 月 20 日

ジャパン・ハウス ロンドン
『Hyakkō: 100+ Makers from Japan
百工のデザイン』展

2025 年 12 月 3 日（水）－ 2026 年 5 月 10 日（日）

ジャパン・ハウス ロンドン 地下ギャラリー／1 階ショーウィンドウ・展示ブース



© ATELIER MUJI GINZA

ジャパン・ハウス ロンドンは、2025 年 12 月 3 日（水）から、暮らしに寄り添う日用の工芸に光をあてた『Hyakkō: 100+ Makers from Japan 百工のデザイン』展を開催します。本展では、日本全国から 120 組を超える作り手が参加し、陶磁器や硝子、木、皮革、金属など様々な素材を用いた美しさと機能性を併せ持つ約 2000 点にも及ぶ多様な作品が一堂に会します。各地の風土や文化、営み、そこに暮らす人々を体現した日用の工芸作品を通して、日本に脈々と流れる歴史や叡智が込められた日本のものづくりの本質や力とは何かを探ります。

日本は古くから、豊かな工芸文化を持つ国として世界的に知られています。漆や金工のような多くの技術は、厳格な徒弟制度のもと世代を超えて受け継がれてきました。しかし、歴史的に見ると、これらの高度な技術で作られた工芸品の多くは、高価な鑑賞用の美術品として作られることが主流でした。1920年代に入ると民藝運動が起こり、名もなき工人により生み出される実用的な手工芸品の美しさに人々の関心が向けられるようになりました。工芸品は単なる装飾品ではなく、暮らしに寄り添う道具として、使う人の心を豊かにし生活の質を高める存在となり、工芸品だけではなくものづくりそのものの価値や魅力を高めました。その流れは、現代の作り手たちにも受け継がれ、伝統的な技術に敬意を払いながら、現代の生活様式に合わせたデザインや機能性を取り入れ、絶えず革新を重ね、日々の暮らしに求められる様々な道具を生み出し続けています。

本展のタイトルにある「百工のデザイン」とは、百も千も万も脈々と続く日用に求められるものづくりにおいて、生きるためのものづくりの要因とは何かを定義した言葉です。これは、単に作り手たちの技術や創造性、美意識を指すだけではなく、日本各地の風土や文化の中で育まれ、やがて伝統となり、さらにその枠を超え次の世代へと繋ぐ、未来を見据えたものづくりの根源的な力を表現しています。

本展では、アーティストや職人、独学の作家など、120組を超える作り手一人ひとりの個性と手仕事が生み出す、ガラスの器や陶磁器の花器、竹のカトラリー、銅製の鍋、編み籠など2000点以上の作品を通して、英国の人々が日本の工芸文化の変遷と多様性について、また伝統や時代を超え現代に紡がれる日本のものづくりを俯瞰的に体感できる機会を創出します。また、日常を彩る美しい作品が生まれる背景や営み、制作風景などを紹介する映像や、工芸に関わる方々へのインタビューを通じて、作り手たちが作品に込めた情熱やインスピレーションの源に迫ります。

会期中は、あらゆる角度から日用の工芸の魅力を楽しむことができるトークやデモンストレーション、参加型ワークショップ、ギャラリートツアーなど様々なイベントを開催します。また、ジャパン・ハウス ロンドンの一階にあるショップでは、30名以上の出展作家が手掛ける品々を販売します。展示空間で心を惹かれた作品を、ご自宅にお持ち帰りいただけます。

『Hyakkō: 100+ Makers from Japan 百工のデザイン』展は、無印良品を展開する株式会社良品計画が、日常芸術をテーマに文化を広げるプロジェクト「Life in Art」の一環としてキュレーションを手掛けた企画展です。本展は、2023年にATELIER MUJI GINZA（東京・銀座）で開催された内容を、ジャパン・ハウス ロンドンのために再構成し開催するものです。

本展はジャパン・ハウスの巡回企画展として、ジャパン・ハウス ロンドンでの開催後、2026年から2027年にかけて、ジャパン・ハウス ロサンゼルスとジャパン・ハウス サンパウロに巡回し、日本の多様な工芸文化の魅力をより広く世界に発信していきます。



© ATELIER MUJI GINZA

「本展は、現代の日本の作り手たちが、深く根付いた美意識をどのように現代に解釈しているかを日本国外の方々に知っていただけるまたとない機会となるでしょう。

<ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず>『方丈記（作者：鴨長明）』冒頭の一節にもあるように、伝統は常に進化し、作り手・作品・使い手の関係性の中で現在と未来を形作っています。人々の暮らしが変化すれば、使う道具も変化します。すべての作品には作り手の物語が宿り、地域の歴史や文化的背景が映し出されています。本展は、日本の作り手100名以上の声を集めることで、日本のものづくりの豊かさや独創性、日常の中に潜む美しさを浮き彫りにします。来場者の方々には、工芸を単なるモノとしてではなく、創造性やコミュニティ、思いやりを育む、生き方の手がかりとして捉えていただければ幸いです。」

——— サイモン・ライト（ジャパン・ハウス ロンドン企画局長）

【開催概要】

展覧会名：『Hyakkō: 100+ Makers from Japan 百工のデザイン』

主 催：ジャパン・ハウス ロンドン

企 画：株式会社良品計画

会 期：2025年12月3日（水）－2026年5月10日（日）

場 所：ジャパン・ハウス ロンドン（101-111 Kensington High Street, London, W8 5SA）

時 間：月曜日～土曜日 | 午前10時～午後8時

日曜日・祝日 | 午後12時～午後6時

入 場：無料

【本展広報用画像】

本展の広報用素材は[こちら](#)からダウンロードいただけます。

本展の公式展覧会画像につきましては、準備が整い次第お知らせいたします。

【株式会社良品計画について】

株式会社良品計画は、「無印良品」を中心に、商品企画・開発・製造・販売までを一貫して行っている製造小売業です。「社会や人の役に立つ」ために、日常生活の基本を担う衣料品、生活雑貨、食品、家具など幅広い商品やサービスを提供しています。

「ATELIER MUJI」は、「暮らしの原点に立ち返り、未来へ進むヒントを見つける工房」という理念のもと、未来を見据えたこの活動は、良品計画が考える文化の交差点として、アートやデザインなど多様なテーマから企画展やイベントを開催しています。

【ジャパン・ハウスについて】

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策、取組を発信することにより、幅広い層に対し、親日派・知日派の裾野の一層の拡大をはかることを目的に、外務省により世界の3都市（サンパウロ・ロンドン・ロサンゼルス）に設置された対外発信拠点です。

ジャパン・ハウス ロンドンは、日本文化への関心が高まる欧州の拠点として、ロンドン市内の文化的、商業的建造物が多く所在するエリアの目抜き通りケンジントン・ハイストリートに2018年6月に開館しました。アールデコ調の歴史的建造物の中の3フロアにわたり、展示ギャラリー、多目的スペース、ライブラリー、レストラン、カフェ、ショップ、観光案内コーナーを備えた複合施設として、アート、デザイン、食、建築、テクノロジーなど日本の多様な魅力を通して、真の日本との出会いを現地の人々に提供しています。

[公式ウェブサイト](#)

[Facebook](#)

[Instagram](#)

[YouTube](#)

【本展に関するお問い合わせ先】

ジャパン・ハウス ロンドン事務局 Marketing & Communications チーム

担当：飛騨 香生里（Stakeholder Engagement Manager）

E-mail：Kaori.Hida@japanhouselondon.uk